

# 準硬式球使用のラスト大会で5連覇達成した日本冷熱工業

## 第15回県下準硬式野球選手権大会

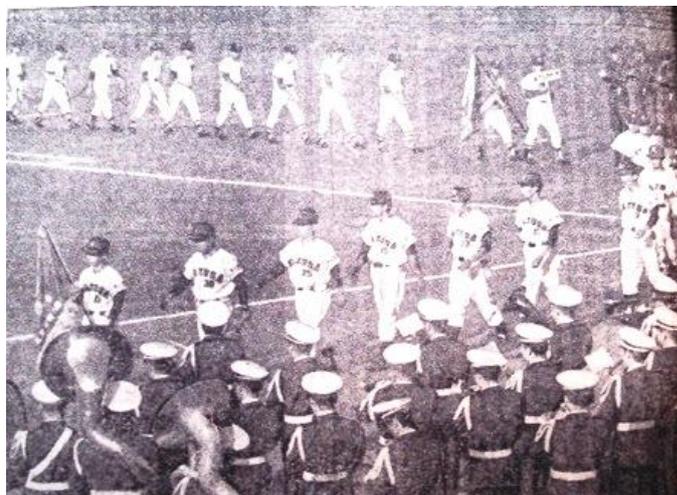
会期：昭和40年11月6日(土)～7日(日)

会場：長崎市宮大橋球場

日本冷熱工業(推薦)	7	10	3	1	8	三菱重工長崎造船所(長崎)
加津佐クラブ(島原南高)	0				1	高島鋳業所(西彼)
栄友会(諫早北高)	0				2	九州電工佐世保(佐世保)
マルヤマ醤油(平戸北松)	8				0	大村アポロ(大村東彼)

第15回県下準硬式野球選手権大会は秋晴れに恵まれた6日大橋球場に前年度優勝の日本冷熱工業をはじめ県下から選ばれた8チームが参加して二日間の大会の幕をあげた。第1日は午前8時半から開会式が行われ県警音楽隊の吹奏する勇壮なマーチによって選手の入場行進が始まった。国旗、大会旗、長崎新聞社旗、連盟旗について前年度チャンピオンで、4年連続優勝の偉業に輝く日本冷熱工業ナイン。紫紺の大優勝旗をなびかせて入場。堂々歩を進めればスタンドから拍手が沸く。次いで前年度準優勝の九州電気工事。各地区代表の加津佐クラブ、栄友会、マルヤマ醤油、三菱重工、高島鋳業、大村アポロが続き各チームナインは力強い足取りでダイヤモンドを一巡。整列が終わったところで君が代吹奏で国旗・大会旗。若い力吹奏で長崎新聞社旗、県軟式野球連盟旗が掲揚されセンターポールに翻った。日冷工から優勝旗、長崎新聞社杯、読売新聞社杯が、準優勝の九電工から準優勝杯が返還され、日冷工にレブリカが贈られた。

大会会長代理の篠原副会長(長崎新聞社広告局長)のあいさつに続いて本大会の発展に功労のあった松浦継義(前県軟野連会長)、田中光成(県軟野連会長)、渡辺源(同理事長)、尾崎光次(同理事)、松沢繁(同)の5氏に感謝状が贈られた。次いで県知事代理高比良企画部長、長崎市長代理鈴木助役がお祝い



闘志を胸に堂々の入場行進をする代表8チーム

の言葉を述べ、これに対し全選手を代表して日冷工の浜辺勇主将が、選手宣誓を行なって開会式を終った。

引き続き投手・高比良県企画部長、捕手・鈴木長崎市助役、打者・松浦前県軟野連会長、球審・田中県軟野連会長の始球式で、日本冷熱工業ー加津佐クラブの試合が開始された。

(昭和40年11月7日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 日冷、12安打の猛攻 加津佐、強攻策たたる

【日冷工】打安点

⑥ 嶋	4	2	0
⑨3 浜 辺	4	2	0
② 酒 田	5	2	1
③ 川 内	4	1	2
R97 梅 井	1	0	0
⑤ 青 木	3	1	1
H5 宮 原	0	0	0
⑦1 松 本	3	2	0
⑧ 毎 熊	2	0	0
H 星 川	1	0	0
8 西 村	2	0	0
④ 井 口	3	0	1
① 的 野	3	2	2
H 増 丸	1	0	0
19 大 塚	1	0	0
			37 12 7

【一回戦】=第1試合=

日本冷熱工業	110	020	201	7	4	7	1	2	2	11	0	2時間12分
加津佐クラブ	000	000	000	0	5	1	0	0	1	2	1	

【評】日冷工の順当な勝利だった。初回酒田の適時打で1点先取した日冷工は二回には松本、井口の八幡大出身コンビの好打で1点を追加し試合の主導権を握り、五回には安打の走者二人を川内の左越え二塁打で迎え入れると七回にも得点を加え加津佐クの息の根を止めた。

加津佐の金子投手は得意の落ちる球が決まらずカーブでカウントを稼いでいたが直球が高めに浮くところを待ちかまえる日冷工打線に狙い打たれた。

加津佐クは日冷工の先発的野から3安打を記録したのみでは勝ち目はなかったが、せっかく二、三、四回先頭打者を出しながら二三回は強行してダブられてしまった。まだ2点差であり回も浅かったので送ってればもっと面白い試合になっていただろう。

## 加津佐、強攻策たたる

【加津佐】打安点

⑧ 福 田	4	0	0
③ 松 本	4	1	0
⑥ 鬼 塚	0	0	0
H6 大 村	3	0	0
⑤ 長 野	3	1	0
⑨ 宮 田	3	0	0
④ 上 杉	2	0	0
① 金 子	3	0	0
② 榊 原	3	1	0
⑦ 松 尾	3	0	0
			28 3 0



1回表日冷工、酒田の安打で嶋が還り先取点

【一回戦】=第2試合= 振球犠盗併残失

マルヤマ醤油	010 410 2	8	1	3	3	10	0	9	0
栄友会	000 000 0	0	3	1	0	1	1	5	3

1時間31分

【二】肥後屋

(7回コールド)

# 4回、一挙に4点

【評】新鋭栄友会がどのような試合振りを見せるか興味をもたれたが実力を出し切れないうま敗退した。二回小笠原のスライズで手堅く1点先取のマルヤマは四回肥後屋の安打を足場に相手守備陣の混乱と江田の適時打などで一挙4点を挙げると、五、七回にも加点して一方的ゲームとした。

栄友会の先発・川原は余り良い出来とはいえなかったが、守備の拙さ、特に捕手の弱肩が大きく響いた。また攻撃面でも精彩無く、さして良い出来とは思えない鳥山を打ちあぐみ5安打を散発したのみで1点も奪えず7回コールドで敗退した。

諫早・北高地区予選の決勝で、昨年と今季の県体で二連覇した古賀建設に逆転勝ちして選手権初出場した栄友会は、昨年ソフトボールを始め、今年の6月から軟式に転向したばかりだった。

【マルヤマ】 打安点

⑨三輪	1 0 1
H9村井	1 1 1
①鳥山	5 0 0
⑥江田	3 1 1
②松尾	3 1 0
⑦柳本	3 0 0
7堤	1 0 0
③肥後屋	3 2 0
④浦田	4 3 1
⑤小笠原	3 2 2
⑧徳勝	4 0 1
<hr/>	
	31 10 7

【栄友会】 打安点

⑦4有門	3 0 0
⑨岩永	3 1 0
⑥法山	3 0 0
⑤田崎	3 1 0
①8川原	3 0 0
⑧1清水	3 2 0
③野田	2 1 0
④池田	1 0 0
H7野崎	2 0 0
②中野	2 0 0
<hr/>	
	25 5 0

## 高島、軟投に手出ず 島内、8回に四球連発

【一回戦】=第3試合= 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	001 020 05	8	2	8	1	9	0	6	0
高島鋳業所	000 000 10	1	3	1	0	0	1	1	3

1時間43分

(8回コールド) 【二】江崎、長崎、春山

【評】高島鋳の新人島内は立ち上がりこそ三つの四球を出して危なかったが併殺で切り抜けて四回までは無難なピッチング。三回小崎の犠飛で1点先取されたがこれは田中の右前打を野手が後逸して三進させていたためであり、この辺りまでは三菱の強打線に充分対抗していた。しかし五回に江崎の二塁打を足場に三ゴロ野選とスライズで2点を加えられ八回には完全に疲れて四球を連発の上、野原、前田に叩かれて傷口を大きくした。

こういう若い投手を登板させた場合、打線が盛り立ててやるべきなのだが、三菱の田中の軟投に手も無く捻られ、七回ようやく長崎、春山の長打で1点をかえたのみ。代わった野原にピッタリ押さえられてしまった。

【三菱】 打安点

⑧山田	2 0 0
⑦小崎	4 0 2
④松山	1 0 1
⑥朝来野	2 1 0
⑤野中	4 0 0
⑨1野原	4 1 0
③前田	3 1 1
②江崎	4 1 1
①田中	2 1 0
9畑田	2 0 1
<hr/>	
	28 5 6

【高島】 打安点

⑤藤島	3 0 0
⑦長崎	3 1 0
⑧3坂田弟	3 0 0
④春山	2 1 1
③山崎	3 1 0
1松本	0 0 0
①9島内	3 0 0
⑥坂田兄	3 0 0
②尾崎	3 0 0
⑨犬塚	2 0 0
98菊池	0 0 0
<hr/>	
	25 3 1

## 当り屋広谷が先取点 九電工 井口好投で完封

【一回戦】=第4試合= 振球犠盗併残失

大村アポロ	000 000 000	0	7	3	0	1	1	6	0
九電工佐世保	000 011 00X	2	1	9	0	1	0	11	0

1時間35分

【二】広谷

【評】九電工は先取点を取ると強い。四回までは大村アポロの永田、荒木にかわされていたが、五回二死四球の走者を一二塁において広谷が荒木の外角球を右中間に好打して1点をあげた。これだけなら大村アポロもまだ反撃の機会があったろうが六回にも二死満塁から井口の三塁内野安打で1点を加えられてしまった。味方の得点に気を良くした井口は終始あぶなげないピッチングで大村アポロ打線を完封した。

【大村】 打安点

②12荒木	4 1 0
⑦田中	3 1 0
⑥草野	3 0 0
④野中	4 1 0
③中野	3 0 0
⑨8川上	4 0 0
⑤1大島	3 0 0
⑧永見	2 0 0
H9小川	1 1 0
①215永田	3 0 0
<hr/>	
	30 4 0

【九電工】 打安点

⑥松島	4 1 0
⑧広谷	4 3 1
④柴山	4 0 0
②坂木	3 1 0
③7佐々木	3 0 0
⑨古川	3 1 0
⑤荒木	2 1 0
⑦石橋	1 0 0
H奥田	1 0 0
3岩松	0 0 0
①井口	3 1 1
<hr/>	
	28 8 2

大会最終日はベスト4による準決勝、決勝が行われた。準決勝第1試合は日本冷熱工業打線がマルヤマ醤油の投手陣に14安打を浴びせる猛攻で10-0の六回コールドで一蹴、続く第2試合は三菱重工長崎造船所の守備陣の乱れに乗じて1点をあげた九州電工佐世保が井口の好投で守り切り決勝戦にコマを進めた。この結果、昨年同様、日冷工-九電工佐世保の

決勝戦再現となったが、五回にバント攻撃で3点を挙げた日冷工が松本-大塚のリレーで九電工の反撃を1点に抑え、大会5連覇を飾った。大会終了後、両軍ナインによる長瀬ゴム提供の記念ボール、タオルのスタンド投げ込みがあった。

(昭和40年11月8日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 日冷工、14安打の猛攻

【準決勝】 1時間14分 振球犠盗併残失

マルヤマ醤油	000 000	0	4	0	0	0	1	0	2
日本冷熱工業	333 001x	10	1	4	0	3	0	6	0

(6回コールド) 【本】青木【三】的野【二】井ノ口

【評】マルヤマ醤油の先発・鳥山は立ち上がり嶋にいきなり初球を左前打され浜辺のバントヒットと酒田の安打で無死満塁のピンチを招き川内の三ゴロで嶋の生還を許した。二死後に青木の中堅頭上を襲うライナーが拙守によりランニングホームーとなって2点を加えられた。打線に火がついた日冷工は二回も四球から4安打つるべ打ちして鳥山をKO。三回にも堤から下位打線の活躍で3点を加え一方的なゲームとした。

日冷工の西村は立ち上がりスピードがのっていない感じだったが味方の大量点に余裕を持ち、伸びのある速球に切れのよいカーブでマルヤマ打線を翻弄。四回に堤の右前打もライトゴロとなる有様で、六回まで一人の走者も出さずじまいだった。

【マルヤマ】打安点

③三輪	2 0 0
⑤14堤	2 0 0
③柳本	2 0 0
9安富	0 0 0
④1浦田	2 0 0
①6鳥山	2 0 0
⑦村井	2 0 0
⑥5小笠原	2 0 0
②桑山	2 0 0
⑧徳勝	2 0 0
	18 0 0

【日冷工】打安点

⑥嶋	3 1 0
⑨浜辺	3 2 3
H9星川	1 0 0
②酒田	4 3 0
③川内	3 2 2
R増丸	0 0 0
3的野	1 1 1
⑤青木	3 1 2
5宮原	0 0 0
⑦松本	2 0 0
7梅井	0 0 0
①西村	3 0 0
④井ノ口	1 1 0
⑧毎熊	3 3 2

27 14 10

## 井口、1点を守りきる

【準決勝】 1時間49分 振球犠盗併残失

九電工佐世保	000 000 100	1	5	3	4	0	1	8	2
三菱重工長崎	000 000 000	0	4	2	0	1	1	6	3

【評】二回に安打3本を集めて作った一死満塁の先制機を逸した九電工佐世保は、その後チャンスをつかめなかったが、七回に思いがけない好機が訪れた。この回の九電工は先頭の荒木が三ゴロ低投に生き、井口とのバント・エンド・ランは三塁前に決めて荒木は一気に三進。ここで代打の石橋が初球スクイズを敢行したがファウル。2球目をきれいに決めて荒木を迎え入れてこれが決勝点となった。ここは当然スクイズが予想されたケースであったが若い三菱重工バッテリーはヨミが不足していたようだ。この日の野原投手はやや速球に伸びを欠いていたとはいえ、二回を除けば九電工打線を押えていただけに、この失点が惜まれる。

九電工の井口投手は前日の大村アポロ戦のようにスピードが無くこの分では三菱重工が先取点を…ということも考えられたが、後半はカーブを多投、これがコントロール良く決まって五回以降は重工打線を無安打に封じ、八回に内野の連失で招いた二死満塁にも動ずること無く松山を投ゴロに討ち取って二試合連続完封勝ちした。

【九電工】打安点

⑥松島	3 0 0
⑧広谷	4 0 0
④柴山	3 1 0
②坂木	3 1 0
⑦3佐々木	3 1 0
⑨古川	3 1 0
⑤荒木	4 1 0
①井口	3 0 0
③岩松	2 0 0
H7石橋	1 0 1
	29 5 1

【三菱】打安点

⑧山田	4 0 0
⑦小崎	3 1 0
④松山	4 1 0
⑥朝来野	3 0 0
⑨山口	4 0 0
③前田	4 1 0
⑤野中	3 0 0
①野原	3 0 0
②江崎	3 0 0

31 3 0

### 昭和40年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第20回全日本軟式野球大会【51チーム】

(S40.8.8~:兵庫県)

九州電工佐世保【一】2-0 日置電機KK(長野)  
【二】1-3 神崎製紙富岡(徳島)

常陸宮賜杯第1回全日本準硬式大会【50チーム】

(S40.5.30~:東京都)

西肥自動車【一】0-4 広貫堂(富山)

第20回岐阜国体(27チーム)には不出場

第9回高松宮賜杯全日本大会(京都府)には不出場

この年から両部とも16チーム参加で九州枠は2となった。

# 日冷工が5年連続優勝

## バント戦法が成功

### 【決勝戦】

1時間55分

振球犠盗併残失

日本冷熱工業	000	030	000	3	7	1	2	3	3	5	2
九州電工佐世保	000	000	100	1	7	0	0	1	1	2	2

### 【日冷工】打安点

⑥ 嶋	3	1	1
6 宮原	0	0	0
⑨ 浜辺	3	0	0
H 星川	1	0	0
1 大塚	0	0	0
② 酒田	4	1	0
③ 川内	4	0	0
⑤ 青木	4	1	0
①⑦ 松本	3	1	0
④ 井ノ口	3	1	0
⑦⑨ 西村	3	1	0
H 的野	1	0	0
9 梅井	0	0	0
⑧ 毎熊	3	1	1
	32	7	2

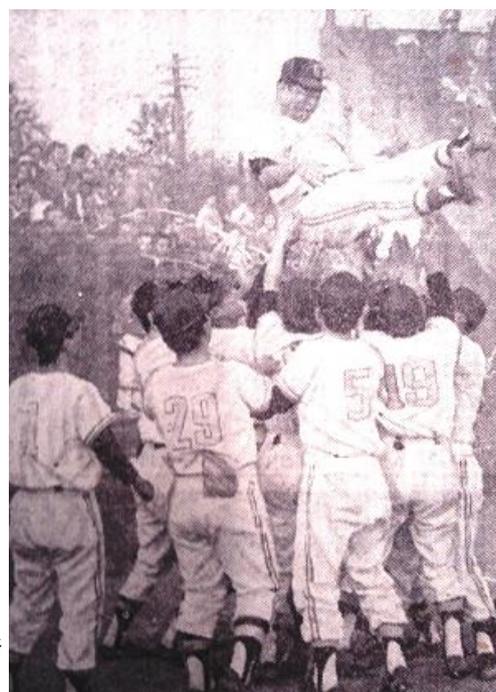
【評】日冷工がエース松本をこの試合まで温存してたのに対し九電工は井口の連投。しかも腹痛で食事もしていないという悪コンディションだった。だが必死の力投でスピード不足をコーナーワークで補い四回まではがっちり四つに組んだまま。二回に両軍とも仲よく二塁に走者を進めただけだった。

ところが五回、日冷工は一死後に当たり屋井ノ口が右中間に好打して突破口を開いた。西村とのエンドランも中して一三塁に、毎熊がスクイズして井ノ口を迎え入れ(写真)、しかもこれを拾った井ノ口が一塁ベースカバーの二塁手に悪送球(記録は1ヒット、1エラー)する間に二三塁に走者を進めた。ここで嶋もスクイズを決めて、井ノ口が一塁へ再び悪送球する間に二塁から毎熊もかえって3点目を挙げた。井ノ口を打ち崩せぬとみた日冷工の作戦が見事に当たったといえる。この回の井ノ口は日頃とは違い浮き足立っていた。

この点、日冷工の松本は前日に1イニングス投げただけであり追い風を利用して九電工打線に勝負を挑み、六回を投じて佐々木に2安打されただけ。七回に遊ゴロ失の柴山に二盗を決められ坂木に右前適時打されて1点を返されたが、日冷工はすぐ大塚をリリーフに送って九電工の反撃を断ち切った。



日冷工は三回に毎熊のスクイズ成功し三塁から井ノ口が生還し先取点挙げる



日冷工ナインから胴上げされる川内監督

### 【九電工】打安点

⑥ 松島	4	1	0
⑧ 広谷	4	0	0
④ 柴山	4	0	0
② 坂木	3	1	1
⑦ 佐々木	3	2	0
⑨ 古川	3	0	0
⑤ 荒木	3	0	0
①③ 井ノ口	3	0	0
③ 岩松	2	0	0
1 奥田	1	0	0
	30	4	1

### ナインの努力のたまもの

#### 川内勝彦・日冷工監督の話

日冷工チームは5年連続優勝だがナインとともに新たな感激に浸っている。決勝戦では予想どおりに九電工と顔を合わせたのが、井ノ口投手の出来がよかったです。本大会前の20日間は出勤前の午前6時から2時間ほど各選手とも熱心に練習を積んだ。勤め先の理解やナインの努力が実を結んだものと思う。

### 【個人表彰者】

- 最優秀選手賞＝松本秀宏投手(日冷工)
- 首位打者賞＝井ノ口勝彦二塁手(日冷工) 7打数4安打2打点
- 敢闘賞＝井ノ口堅投手(九電工)
- 酒田正二捕手(日冷工)
- 美技賞＝荒木太平三塁手(九電工)
- 優勝監督賞＝川内勝彦(日冷工)
- 準優勝監督賞＝深田薫夫(九電工)

